

大規模レモン産地化とフードバリューチェーン 確立を目指すコンソーシアム

大規模レモン産地の振興モデル

- 対象果樹／レモン（リスボン、ビアフランカ等）
- 対象市町村／静岡県磐田市
- 中核機関／株式会社LEMONITY
- コンソーシアム構成員
 - ・株式会社鈴生
 - ・ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
 - ・Wismettacフーズ株式会社
- 協力企業
 - ・GREEN OFFSHORE株式会社
 - ・一般財団法人アグリオープンイノベーション機構



平坦で大規模なレモン園地を形成し、産地振興を目指し、
レモン生産から貯蔵流通、青果出荷と加工までの総合的なフードバリューチェーンを形成し、
国産レモンの安定供給確立を目指す

- 農閑期リレーを実証、異業種間労働力連携
- 地域に適合する国産レモン栽培技術の確立
- 双幹形樹形導入と農機導入の円滑化と省力栽培
- 鮮度保持、貯蔵技術の試験実施



- 労働力確保のための農閑期リレーを実証、異業種間労働力連携の検討
- 灌水自動化、省力施肥技術実証、防風ネットの効果測定とトゲ無しレモン品種試験、2本主枝仕立て双幹形で樹冠構造を均一化しスピードスプレーヤー等農機導入の円滑化と省力栽培を図る
- 貯蔵技術、選果技術の調査、熟成抑制フィルムや鮮度保持資材に関する貯蔵試験を実施

該当作物の一般的な栽培状況や課題

- 労働力不足の進行で持続的な産地維持、生産性向上が困難
- 栽培管理が気象条件、生産者の経験に依存されており客観的な判断指標が不足している
- 選果・貯蔵技術が確立されていないため、出荷段階におけるロス率が高く、収益性の確保と安定供給の面で大きな課題

現状（Before）

- 反収：6,679,590円/1ha
- 労働時間：1,230時間/1ha
- 労働生産性：5,430円/時間 ※10,861,121円/人

コンソーシアムが目指す将来像

- 農繁期リレーと異業種間連携による農繁期における労働力確保が可能となり、作業の遅延や人手不足による生産リスクが低減化
- 灌水施肥作業の省力化と管理制度の向上を実現・収量・品質の安定化及び規模拡大に対応可能な生産方式を確立
- 選果・貯蔵技術の高度化により出荷ロス率を低減化し品質を維持した安定出荷が可能となり、国産レモンの競争力が強化される。

7年後の目標（After）

- 反収：6,896,512円/1ha
- 労働時間：1,173時間/1ha
- 労働生産性：5,879円/時間 ※11,758,758円/人